

奥歯を抜いた後の治療方法。選択肢は 義歯、ブリッジ、インプラント

教えて！ドクター

人生100年時代 歯を長持ちさせよう！

Vol.2



とびた先生の歯科Q&A

「人生100年時代、歯を長持ちさせよう」と活動している飛田晴康先生（飛田歯科医院院長）が、トラブルを起こした歯の治療法などを詳しく説明してくれます。※このコラムは2カ月に1回掲載

Q

「残りの人生で、どのようなものを食べたいかななどの生活を踏まえて治療方法を選択されてはいかがでしょうか」

奥歯が割れて歯を抜いたのですが、どのような治療方法がありますか。保険の適用範囲で治療する場合、保険外診療でも違いはあると思いますが、長い目で見てどうなのか悩んでいます。（岡山市、B子）

A

一般的に歯を失った時の治療方法は、①義歯、②ブリッジ、③インプラントの3つが一般的です。奥の歯を失われた場合は、奥の歯を失われた場合の選択肢として考えられるのは、①義歯、②ブリッジ、③インプラントの3つです。ただし、残っている歯への負担が過剰にならないので、歯を長く残したいと考えられる方は咬み合わせも含めたお口全体の管理が必要です。

①義歯
②ブリッジ
③インプラント
④歯を入れない（抜けたままの状態）

まず、①義歯は抜いたところの歯茎が落ち着けば容易に歯を入れることができますが、違和感が多い、咬（か）めないと感じられる場合が多いようです。でも、中には問題ないと感じられる方もおられます。

②ブリッジは抜かれた前後の歯を治療して入れるため、その歯に負担がかかりやすい状態になります。そのため、歯が割れて歯を失われた方は咬む力が強い、歯ぎしりなどの可能性があるため、治療した歯に過剰な負担がかかります。また、いちばん

③インプラントは違和感も少なく他の歯への負担も少なく、しっかりと咬むこともできます。しかし、保険外診療で費用がかかる、外科手術を伴う、治療期間が長いことを承される必要があります。近年、この治療方法が最も薦められる理由は、他の歯への負担が少なく成功率も高く長期に安定する確率も高くなってきたからです。

④歯を入れないという選択は、歯を失われても不自由を感じられない方

残った歯を長持ちさせ、お口の健康を長く維持するための投資と考えれば悪くない選択だと思います。ただし、しっかりと咬めるので治療後は定期的にお口全体の咬み合わせの管理が必要です。

④歯を入れないという選択は、歯を失われても不自由を感じられない方



歯科医師 飛田 晴康先生

飛田歯科医院 院長
1985年大阪歯科大学卒業。東京都港区、京都府南丹市、神戸市東灘区の歯科医院勤務を経て、2005年から現職
◆住所 岡山市北区広瀬町11-19
◆☎086-222-3194

